

**【港南区】令和3年第2回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録**

開催日時	令和3年6月11日（金） 午前9時30分～午前11時
場 所	港南区役所6階 603会議室
出席者	<p>【座長】 田野井一雄議員</p> <p>【議員：4名】 瀬之間康浩議員、みわ智恵美議員、安西英俊議員、梶尾明議員</p> <p>【港南区：30名】 栗原敏也区長、齋藤紀子副区長 飛田千絵福祉保健センター長、 水野圭一郎福祉保健センター担当部長、 井深清港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <p>2 令和3年度港南区に係る予算の全体像について</p> <p style="text-align: right;">（山下総務課長説明）</p>
発言の 要 旨	<p>梶尾議員：ワクチンについてはこれから64歳以下への接種券の発送も始まるが、引き続き市民に寄り添った対応をして欲しい。</p> <p>さて、ワクチン相談窓口について、設置当初から現在まで、港南区役所ではどれだけの方が利用され、また、どのような声があったのか。</p> <p>山下総務課長：1番多い日で300名以上、少ない日で60名程度。</p> <p>毎週月曜の予約開始日に、予約センターへの電話や予約サイトに繋がらないといった声が多く、高齢の方が多いため、スマートフォンやパソコンを利用した予約サイトでの予約方法が分からず、電話予約が殺到し、電話が繋がりにくかった。この事により、相談窓口に来庁される方が大変多かった。</p> <p>梶尾議員：現在、相談窓口については何人体制か。</p> <p>山下総務課長：昨日まで4人体制だったが、本日より5人体制となった。</p> <p>梶尾議員：今後、個別接種や大規模接種などの接種の機会が増えること等により相談窓口の対応も減ってくると思う。これから若い世代への接種券の発送が始まると、予約が週末に偏るなど様々な問題が発生してくると考えられるが、区役所として何か対応を考えてい</p>

るのか。

山下総務課長：現在、相談窓口に配備されている5人の相談員の他に、窓口混雑時には区役所の職員も配置し、丁寧に対応している。今後、発生する様々な課題や区民の皆様の困り事については、局と連携しながら引き続き対応する。

梶尾議員：電話予約が終了した場合、ホームページ等で案内しているが、情報が行き届いていないため、電話をかけ続けてしまう方が多くいると聞いている。局側の課題ではあるが、区としても情報提供などできることは対応して欲しい。

次に、災害時も地域で見守り推進事業にHUG（避難所運営ゲーム）による福祉避難所運営訓練とあるが、どのように進めていくか現在決まっていることがあったら伺いたい。

大島高齢・障害支援課長：昨年度行う予定だった福祉避難所の連絡会議を、8月に開催する予定としている。そこでHUGの体験若しくは研修等を行い、課題を洗い出した上で、福祉避難所に港南区版HUGカードを配布する予定。

梶尾議員：対象者はどういった方なのか。

大島高齢・障害支援課長：区内30施設に従事している職員を想定している。

梶尾議員：HUG訓練は、避難所の施設運営に関して理解を得やすく、効果も出ていると聞いている。施設職員や、協力したいと思う区民の方がこのような体験を通じ、運営側に回れるチャンスもあると思うので、この取組を確実に進めてほしい。

次に、コロナ禍により障害者施設や福祉作業所の工芸品や食料品の販売の場が失われている中で、何か取組として進んでいることがあれば教えてほしい。

大島高齢・障害支援課長：広報活動支援として、作業所について知っていただくため7月から広報よこはま港南区版に事業所の連載をする。また、笹下台団地で地元の町内会の方の協力をいただき、移動販売の場にこうなん来夢からの出店を呼び掛けたところ、6月17日からモデル的に、2つの障害者施設が出張販売に参加することとなった。

梶尾議員：「港南区に係る予算のすがた」で、生活保護費について30億円

となっているが、どれぐらいの方が受給しているのか。また、窓口の対応状況やケースワーカーの負担はどうなのか。

矢口生活支援課長：世帯数について、今は2,400世帯ほど、前年度は2,300世帯ほどで約100世帯ほど増加した。

窓口の対応状況について、相談件数は、昨年度は1,800件ほどで、その前年度は1,400件ほどだったので、約30%増になった。増加傾向ではあるが、生活保護の他に社会福祉協議会での貸付の相談や生活困窮制度の相談もある。そのため、生活保護の相談が激増しているような状況では今のところない。昨年度末からは減っており、窓口についても落ち着いている。

みわ議員：新型コロナウイルスのワクチンの状況であるが、7月末までに接種完了を想定している港南区の65歳以上の高齢者、約5万人のうちどのくらいの方が予約しているのか。

山下総務課長：市全体の進捗状況は記者発表されているが、区別の内訳は局で集計中のため、把握していない。今後局から提供されると考えている。

みわ議員：今後、64歳以下の方の接種券が発送されるということで、高齢者の取り残しが懸念される。巨大な都市の中で市が何かするというのは難しいと思うので、区で何かできるようなシステムを構築してほしい。

次に、災害に強いまちづくり事業で、避難場所と防災拠点について、風水害時の避難場所と地震の際に避難する地域防災拠点は区民にとって、すみ分けが難しいと思う。区民がわかるよう防災マップに風水害の避難場所が明記されているか。

山下総務課長：「港南区区民生活防災マップ」では、地域防災拠点及び風水害時の避難場所一覧を掲載している。地震の時の地域防災拠点と、風水害時の避難場所が分かりづらいという意見があったので、昨年の広報よこはま9月号や、今年の5月号で広報を行った。また、「港南区防災ガイド中学生編」の中でも示し、風水害時の避難場所については、力を入れた広報活動を行っている。

みわ議員：最新版を入れており、港南区は進んでいると思う。引き続き広報を行ってほしい。

次に、地域カステップアップ事業の新規事業として、商店街と

連携した港南ひまわり83運動の推進とあるが、具体的にどういったものか。

松田地域振興課長：現在のぼりを作成して、協力いただける商店に掲示し、イベントなどで配布できるよう83太郎のイラストがついたエコバックを作成している。また、そのほかにもイベントがあれば83太郎の着ぐるみを活用していく。

みわ議員：健康アクションこうなん5推進事業で、がん検診の受診率向上とあるが、港南区として具体的な目標や数値はあるのか。

佐藤福祉保健課長：港南区として具体的な目標数値は定めていないが、若い方の受診率を上げるためにイベントチラシに検診の周知を入れたり、QRコードから申し込みを可能にしたり、一時保育付きの検診場所を設けたりと工夫していきたい。

みわ議員：受診率が低いということを周知するとともに、具体的な目標数値を提示していただきたい。

次に、地域スポーツ応援事業の健康ランニング大会だが、実施するかしないかを検討しているのか。それとも開催場所を検討しているのか。

松田地域振興課長：今後の実行委員会で詳細について決めていくことになる。例年、野庭団地を中心に行っているが、青葉区や都筑区ではコロナ禍を踏まえリモートで開催しているところもあるので、事務局として参考にしながら開催方法を工夫していく。

みわ議員：社会的に問題になっている生理の貧困に関連してであるが、公共施設等の個室に生理用品を設置することは考えているのか。

松田地域振興課長：今のところ区民利用施設において、生理用品等を設置することは考えていない。

みわ議員：今後、検討してほしい。

歩行者サポート事業で公道における整備とあるが、私道けれども公道と同じように通学路等で頻繁に利用されている道路があると思うが、そのような場所の対応の考え方を教えて欲しい。

麻生土木事務副所長：私道については私道助成という助成制度がある。助成制度の申し込みは、土木事務所で対応する流れになるため、土木事務所に相談いただきたい。

みわ議員：わかってはいるが、土地を持っている方と利用している方が違

う場合、私道助成制度の範囲内では難しく、大勢の方が利用しているのに私道ということですりが付かないような場合、区で要望に対して何か取組ができないか。

栗原区長：実際に現場を見て、公道的な利用がされている私道があると確認できた場合、そこに何かしようとする補助という形になってしまうのは原理原則だが、今後勉強していきたい。

みわ議員：みんなでつくるふるさと港南事業について、港南公会堂の前の広場を使用した野菜直売会の開催とあるが、一般に開放して、多くの区民が公園のように利用ができればと思うが、その点について何か決まりはあるのか。

松田地域振興課長：区が主催、共催するようなイベントで使用する想定であるため、それ以外の団体には貸すような予定は想定していない。

みわ議員：旧消防団倉庫部分も含め、素晴らしい場所であるため、区民と相談しながら是非公園のように活用できるようにして欲しい。

安西議員：コロナの感染者が急増した時のため、現在はどのような組織体制になっているのか。

佐藤福祉保健課長：体制について、昨年に比べ医師の担当係長、コロナを専門に扱う係長、専門職の保健師を増員した。今後に向けて会計年度任用職員、派遣職員を増強しつつ、できる範囲のこととして区役所各課からの協力により進めていきたい。

また、手続き上の課題として、陽性者数が多くなってきたときは事務が滞るという指摘もあった。事務の決裁手続き等効率的に行えるよう工夫をし、陽性者数が増えてきた場合にも円滑に対応していきたい。

安西議員：昔は無症状者が多かったが、現在は、無症状者が少なく軽症者の割合が増加傾向にあると思う。陽性者が出た時、自宅療養はある意味負荷もかかるので、ぜひ改善を図り適切に進めていただきたい。

ワクチンに関しては、少しずつ進んでいて、問い合わせも減ってきた。現時点では一人暮らしで自分一人では予約できない人、往診のような形でなければ接種できない人がいることが課題と考える。これに対して、区の医師会の協力を得ながらであるが、

必然的に区ごとの温度差が出てしまうと思うがどうか。

山下総務課長：市で考えていると聞いており、デイサービスを利用している方については事業所で接種できる形で調整している。

また、かかりつけ医がいる場合は訪問接種を基本にして、それが難しい場合は訪問可能な医療機関を紹介していく仕組みを作るよう検討していると聞いている。我々としてもこの動きをしっかりと見ながら区として何ができるのか考えていく。

安西議員：自治会町内会の ICT の活用状況について伺いたい。

また、横浜市がネット上で情報を発信した際に、港南区は、自治会町内会の皆様にメールのようなプッシュ型で情報提供するなど、オンラインを活用している事例はあるか。

松田地域振興課長：現時点では活用事例はないが、自治会の ICT 活用に関して、自治会町内会の中にも団体によりかなり進んでいるところと難しいところがあり、まずは自治会町内会相互のコミュニケーションツールの構築が必要と考えている。今年度の個性ある区づくり推進費の新規事業で ICT コンサルティングを 8 月いっぱい受付けている。申請書をホームページからダウンロードし申請できるツールができています。現在、連合含めまだ 7 団体ほどからの相談だが、ホームページの作成、電子掲示板 オンライン会議など、人々が集まらなくてもできるような仕組みを構築したいという要望が来ている。

安西議員：今回のワクチン接種において、毎週のように大事な情報が更新されているにもかかわらず、横浜市では情報を瞬時に市民に伝えるという手段が弱いということが露呈した。

ワクチン接種は市の事業ではあるが、個別に予約できる医療機関など、区ごとの情報については、いち早く区民の皆様に伝える手段を区がしっかりと持たなくてはならない。

区役所が発信する「安全安心メール」のように、プッシュ型で情報提供しているものもあるが、詳細な内容を伝えるのは難しいと思う。そこで、区のホームページを有効に活用して、必要な情報をわかりやすく伝えられる仕組みを作るべきと思うがどうか。

栗原区長：区役所は身近な行政機関として、必要な情報をわかりやすく発信していく必要があり、非接触が求められるコロナ禍では、ホー

ムページは有効な手段と考えている。

今後、SNS を見ることができる 64 歳以下の方々が対象となってくることを考えると、更に有効となっていくので、仕組みづくりについて研究していきたい。

安西議員：最後に要望だが、今回桜道で桜の木をヨウコウに植え替えているが、育っていく過程で小さい木なので歩道に枝が張り出し、目の不自由な方がその枝に顔がぶつかり転倒したと聞いた。さまざまな樹木の植え替えの際は、定期的に剪定しないとバリアフリーに課題が起きると言うことを知っておいてほしい。

瀬之間議員：港南区で旧野庭中学校の中のどこでワクチン接種を実施しているのか。

山下総務課長：体育館で実施している。

瀬之間議員：連日 30 度以上の暑い日が続いており、これから 7 月 8 月と猛暑が予想されている。その中で体育館の空調の状況はどの様になっているか。

山下総務課長：仮設の冷房機を 10 台設置してきちんと冷えるよう設定している。

瀬之間議員：高齢者が暑さの中、大変な思いで接種会場に行くと思う。グラウンドを駐車場として開放しているのか。

山下総務課長：駐車場の用意はない。

瀬之間議員：暑い中、空調の管理を充分していただきたい。

安全で快適な生活推進事業について、災害時のペット同行避難支援で、非集合型の啓発手法としてパネル等を作成して区民ホールで展示とはどのような内容か

私市生活衛生課長：高さ 1m くらいのパネルを 6 枚に横断幕とのぼりを立て、多くの区民の皆様がペット同行避難に興味を持っていただくことを目的とした内容となっており、9 月と 1 月に開催する予定。

瀬之間議員：引き続き啓発活動と共によろしくお願ひしたい。

田野井議員：ワクチン予約について、かつてホームページで協力医療機関名簿が公表された時に、電話が集中し、コールセンターもなかなか繋がらないという状況だった。ところがある人がかかりつけ医に行ったら、その場でワクチンを打ってもらったという話もあ

	<p>る。ワクチン接種については医師会と力を合わせ全力で対応していると思うが、港南区内の医師会の病院のうちどのくらいの病院がワクチン注射をしているのか。区民は日頃接している、かかりつけ医から打ってもらうことは安心感があり気持ちの整理がつくと思う。</p> <p>山下総務課長：個別接種について、公表されている医療機関が 51 件、このほか、接種は行っているものの公表されていない医療機関が 50 件程度ある。</p> <p>田野井議員：現状では区内に 100 件位の協力医療機関があるということで、区民には歳を重ねるほどかかりつけ医はいると思うので、協力医療機関の情報についてもっとアピールが必要かと思う。</p> <p>次に HUG 訓練については、瀬之間議員も発言されていたが、災害は時を選ばないので、一気に避難所である小学校、中学校に人が来て混乱する。自治会町内会でもまずは机上作戦をしてと、何回も申し上げているが、重要なことだと思う。</p> <p>またペット同行避難について、意外とペットを飼っている人は多く、ペットを置いて避難するわけにいかない人も多い。横浜市獣医師会会長で港南区在住の太田先生のように地元の有識者は必ずいるので、活用してほしい。</p> <p>今はコロナ最優先、力を合わせて全体を見て、安心安全これからも住み続けたいまちということで頑張してほしい。</p>
備 考	